

第 8 章

労働委員会活性化に向けた取組

第8章 労働委員会活性化に向けた取組

近年、非正規雇用労働者の割合の増大や、労働者に長時間労働等の過酷な労働を強いるブラック企業が社会問題化する一方で、労働環境の改善を図る法改正も相次ぎ行われている。

働き方改革の一環として平成31年4月（中小企業は令和2年4月）から、時間外労働の上限規制を強化する労働基準法の改正法が施行され、令和2年にはハラスメントのない社会の実現に向けて労働総合施策推進法が改正され、令和4年4月からは中小企業にもパワーハラスメント防止対策の措置が義務づけられた。

時間外労働の上限規制の関係では、特に自動車運転業務等において、令和6年4月から運転手の時間外労働が年960時間までに制限されたため、物流業界ではいわゆる「2024年問題」として対応に苦慮しているという状況が生じている。

このように、労働を取り巻く環境は大きく変化し続けており、その中で生じる労使紛争もより複雑化、多様化しているところである。

こうした中で、労働委員会が労使紛争の未然防止や早期、円満な解決のためにその役割をより一層発揮できるよう、労働委員会活性化に向けた取組を行った。

1 広報・周知活動

- (1) 電話、電子メール、来所等による労働相談の窓口を周知するため、労働相談専用のホームページ等により広報を行った。
また、広報用のチラシを県内全ての市町村に配付し周知を図った。
- (2) 「労働困りごと現地相談会」及び「労働困りごと委員相談会」の開催についてホームページ等により広報を行った。
- (3) 労働委員会の取組や労働関係法令の知識について X(旧 Twitter)により、広く情報発信を行った。
- (4) 中央労働委員会と都道府県労働委員会が毎年10月に行っている「個別労働関係紛争処理制度」周知月間に合わせて、労働委員会の取組周知を目的としたパネル展示を県庁舎及び県立図書館で開催した。



(左から県庁舎、県立図書館の展示の様子)

2 委員の資質向上に関する取組～研修会の開催～

委員の資質向上に資するため、総会の開催に合わせ研修会を実施し、講師（委員又は外部講師）による講演や諸会議の議題の検討を行った。

[講師による講演実績]

年月日	演 題	講 師
R6. 1. 23	障害年金の基礎知識	二瓶 優子 委員 (公益委員)
R6. 2. 27	2024年問題と労働条件明示のルールについて	福島労働局 労働基準部長 田沼 久志 氏
R6. 3. 26	春闘について	高原 英二 委員 (労働者委員)
R6. 5. 28	自動車について	菅野 恵 委員 (労働者委員)
R6. 8. 27	話し方のスキルアップについて	フリーアナウンサー 引田 さいこ 氏
R6. 9. 24	弁護士が考える「終活」 ～相続の基礎知識とともに～	槇 裕康 会長 (公益委員)
R6. 10. 22	スポーツクラブ アクトスの紹介	星 里菜 委員 (労働者委員)
R6. 11. 26	双葉郡の雇用労働情勢について	相双公共職業安定所富岡出張所 所長 酒井 敏浩 氏 統括職業指導官 三浦 光代 氏
R6. 12. 17	B C Pと自主防災	船生 秀文 委員 (使用者委員)

3 労働紛争の未然防止に関する取組～ワークルール出前講座の実施～

就職前の大学生、高校生などを対象に、労使紛争の未然防止を図るため労働に関する基本的な知識（ワークルール）を講義するワークルール出前講座を実施した。

(1) 開催実績

	学校名	年月日	講師	受講者数
1	県立須賀川創英館高等学校	令和6年1月11日(木)	菅野 恵 委員 (労働者委員)	49名
2	福島学院大学	令和6年1月19日(金)	駒田 晋一 会長 (公益委員)	26名
3	県立勿来高等学校	令和6年1月19日(金)	板橋 正治 委員 (使用者委員)	31名
4	県立田村高等学校	令和6年2月21日(水)	石山 純恵 委員 (使用者委員)	102名
5	福島少年鑑別所	令和6年4月26日(金)	吉高神 明 委員 (公益委員)	1名
6	テクノアカデミー会津	令和6年5月17日(金)	二瓶 優子 委員 (公益委員)	28名
7	福島大学	令和6年6月24日(月)	槇 裕康 委員 (公益委員)	13名
8	県立ふくしま新世高等学校	令和6年7月10日(水)	高原 英二 委員 (労働者委員)	4名
9	県立会津工業高等学校	令和6年11月15日(金)	二瓶 優子 委員 (公益委員)	170名
10	私立福島東稜高等学校	令和6年11月20日(水)	長谷川 珠子 委員 (公益委員)	181名
11	福島学院大学	令和6年11月25日(月)	大越 香代子 委員 (労働者委員)	26名
12	県立喜多方桐桜高等学校	令和6年12月12日(木)	石塚 治志 委員 (使用者委員)	96名
			計	727名

ワークルール出前講座の実施状況

	高 校	専門学校	大 学	その他	合 計
平成27年	7	3	3	1	14
	1,196名	163名	89名	76名	1,524名
平成28年	7	3	3	1	14
	876名	132名	283名	80名	1,371名
平成29年	12	3	4	0	19
	1,472名	151名	392名	0名	2,015名
平成30年	14	3	2	0	19
	1,375名	117名	58名	0名	1,550名
令和元年	13	2	2	0	17
	779名	91名	123名	0名	993名
令和2年	11	2	0	0	13
	817名	65名	0名	0名	882名
令和3年	4	2	2	0	8
	327名	71名	70名	0名	468名
令和4年	9	2	3	2	16
	735名	59名	85名	2名	881名
令和5年	8	2	3	3	16
	498名	69名	87名	3名	657名
令和6年	7	1	3	1	12
	633名	28名	65名	1名	727名

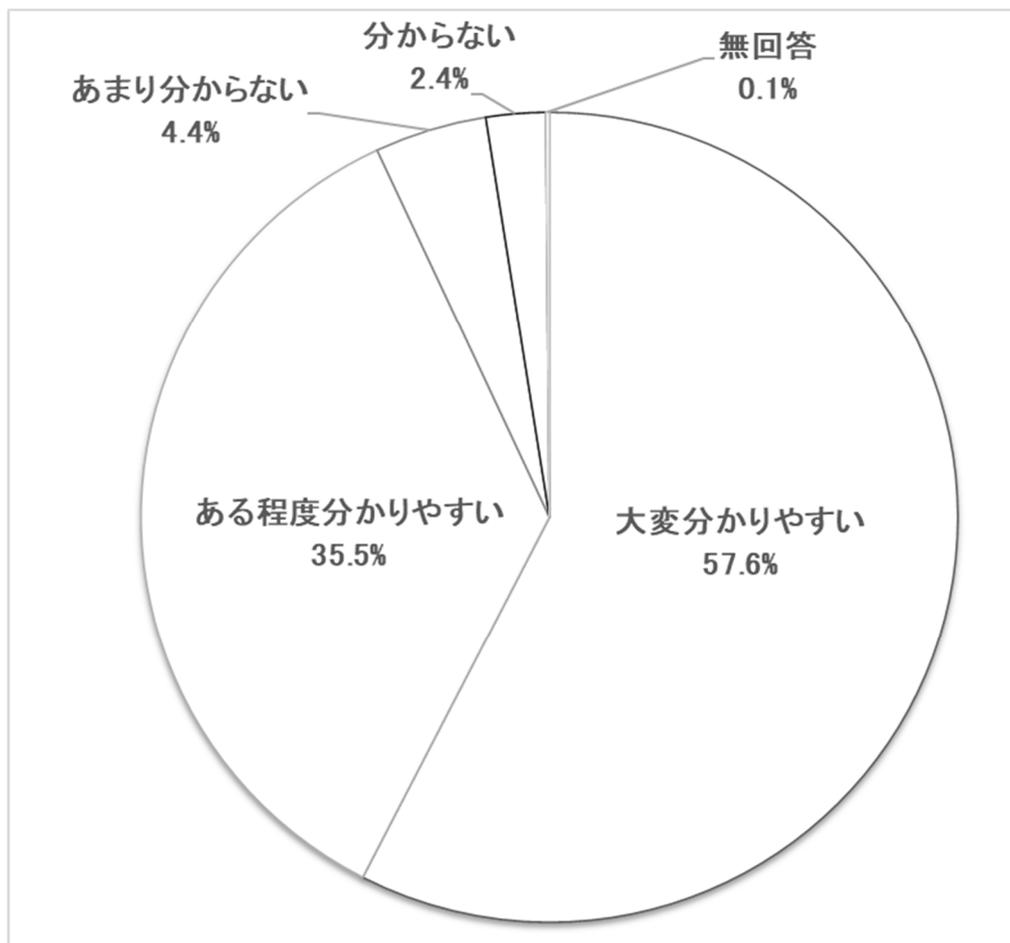
(注) 表中、上段が実施回数、下段が受講者数となっている。

(2) アンケート結果

受講者アンケートでは、「大変わかりやすかった」が 57.6%、「ある程度わかりやすかった」が 35.5%と合わせて 93.1%となっており、高い評価を得ている。

受講者からは、「雇っている側も多くの配慮をしないと、ハラスメントや労働基準法に引っかかることが印象的だった。」「事例が多く、中には自分が不安に思っていた問題もあったので、とてもためになりました。」「仕事をする上で「報・連・相」が最も重要だということを改めて知ることができました。」などの感想が寄せられた。

[アンケート結果]



(注) 上記グラフは、令和6年の全受講者数 727 名のうち、アンケートの提出があった 721 名における回答の割合を表している。

[ワークルール出前講座の様子]



県立勿来高等学校
(R6.1.19 講師：板橋 正治 委員)



テクノアカデミー会津
(R6.5.17 講師：二瓶 優子 委員)



福島大学
(R6.6.24 講師：榎 裕康 委員)



県立ふくしま新世高等学校
(R6.7.10 講師：高原 英二 委員)

4 労働紛争の未然防止に関する取組～ハラスメント防止出前講座の実施～

労使紛争の未然防止を図るため、会社や労働者・使用者の団体などを対象に、ハラスメントの基本的な知識やハラスメントが起きた際の対応等について講義するハラスメント防止出前講座を実施した。

また、より多くの会社や団体が受講できるよう、従来の対面方式での実施に加え、YouTubeによる「動画配信方式」を令和6年8月に新たに立ち上げた。

(1) 開催実績（対面方式）

	団体名	年月日	講師	受講者数
1	公益財団法人福島市スポーツ振興公社	令和6年1月25日(木)	小林 文紀 委員 (使用者委員)	23名
2	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	令和6年2月2日(金)	榎 裕康 委員 (公益委員)	56名
3	双葉地方広域市町村圏組合消防本部	令和6年2月7日(水)	榎 裕康 委員 (公益委員)	52名
4	社会福祉法人ハートフルなこそ	令和6年2月9日(金)	二瓶 優子 委員 (公益委員)	15名
5	連合福島 県中地域連合	令和6年2月10日(土)	大槻 光政 委員 (労働者委員)	16名
6	公益社団法人福島県食品衛生協会	令和6年2月16日(金)	穴澤 耕二 委員 (使用者委員)	10名
7	相馬共同火力発電株式会社	令和6年2月29日(木)	荒川 聡 委員 (労働者委員)	21名
8	医療法人(匿名希望)	令和6年3月7日(木)	板橋 正治 委員 (使用者委員)	10名
9	社会福祉法人塙町社会福祉協議会	令和6年3月7日(木)	小林 文紀 委員 (使用者委員)	18名
10	学校法人コングレガシオン ・ド・ノートルダム	令和6年4月2日(火)	吉高神 明 委員 (公益委員)	98名
11	アイム不動産株式会社	令和6年4月8日(月)	大越 香代子 委員 (労働者委員)	15名
12	株式会社SPI	令和6年5月10日(金)	駒田 晋一 会長 (公益委員)	28名
13	株式会社ネクスコ・メンテナンス東北 オートメンテ東北	令和6年5月29日(水)	菅野 恵 委員 (労働者委員)	12名
14	アイシンテック株式会社	令和6年6月10日(月)	穴澤 耕二 委員 (使用者委員)	34名
15	株式会社ニューリース福島支社	令和6年7月8日(月)	吉田 佳世子 委員 (公益委員)	6名
16	相馬地方広域消防本部	令和6年7月17日(水)	荒川 聡 委員 (労働者委員)	79名
17	相馬地方広域消防本部	令和6年7月18日(木)	荒川 聡 委員 (労働者委員)	56名
18	株式会社大和三光製作所	令和6年10月8日(火)	小林 文紀 委員 (使用者委員)	13名
19	社会福祉法人喜多方市社会福祉協議会	令和6年10月8日(火)	二瓶 優子 委員 (公益委員)	11名
20	公益社団法人福島県トラック協会	令和6年10月11日(金)	北目 哲郎 委員 (公益委員)	19名
21	株式会社(匿名希望)	令和6年10月31日(木)	板橋 正治 委員 (使用者委員)	51名
22	株式会社Jヴィレッジ	令和6年11月7日(木)	榎 裕康 会長 (公益委員)	15名
23	社会福祉法人川内村社会福祉協議会	令和6年11月18日(月)	船生 秀文 委員 (使用者委員)	15名
24	白河地方広域市町村圏消防本部	令和6年11月21日(木)	大槻 光政 委員 (労働者委員)	31名
25	医療法人 明信会	令和6年11月28日(木)	石山 純恵 委員 (使用者委員)	155名
			計	859名

(2) アンケート結果（対面方式）

受講者アンケートでは、「大変わかりやすかった」が73.1%、「ある程度わかりやすかった」が26.0%と合わせて99.1%となっており、高い評価を得ている。

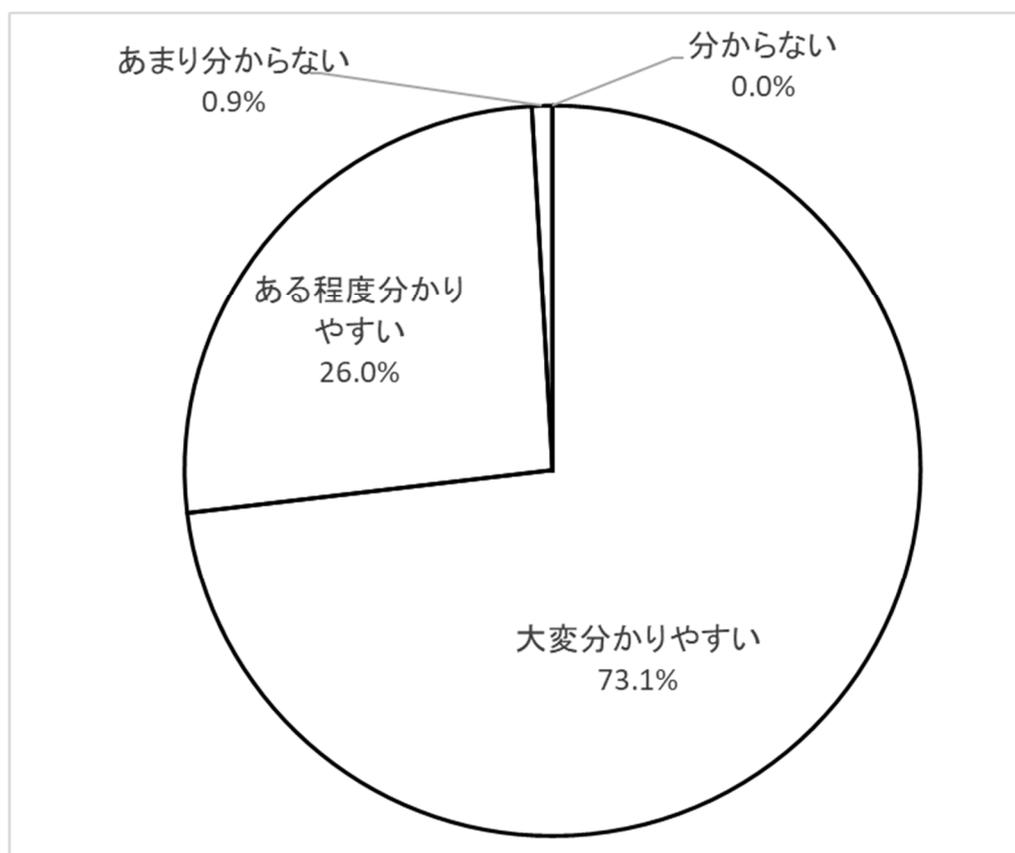
受講者からは、

「自身がパワハラをしていないか、周りに不快を与えていないかを振り返る良い機会となった。実際にパワハラ行為が起きた際には、今日学んだことを生かし、周りが気付き、動ける職場環境づくりに努めたい。」

「業務指導などの際にハラスメントを意識しすぎて適切に指導をすることに躊躇してしまいそうだが、相手の人格を尊重しながら、常に「指導する」という正しい意識をもって接していきたい。」

「ハラスメントを恐れ指導や指摘を放棄するのではなく、ハラスメントへの正しい知識を持ち人材育成に努めたい。」などの感想が寄せられた。

[アンケート結果]



(注) 上記グラフは、令和6年の全受講者数859名のうちアンケートの提出があった666名における回答の割合を表す。

(3) 開催実績（動画配信方式）

	団体名	配信期間	受講者
1	南会津地方広域市町村圏組合 消防本部	令和6年9月9日 ～10月11日	88名
2	喜多方地方広域市町村圏組合 消防本部	令和6年10月1日～31日	43名
3	株式会社（匿名希望）	令和6年10月21日 ～11月20日	17名
4	公益社団法人福島県看護協会	令和6年11月1日～29日	10名
5	社会福祉法人いわせ長寿会	令和6年11月1日～30日	126名
6	株式会社Jヴィレッジ	令和6年11月7日～30日	10名
7	株式会社（匿名希望）	令和6年12月1日～31日	10名
8	滝建設工業株式会社	令和6年12月16日～ 令和7年1月18日	27名
		計	331名

(4) アンケート結果（動画配信方式）

受講者アンケートでは、「大変わかりやすかった」が37.8%、「ある程度わかりやすかった」が58.2%と合わせて96.0%となっており、高い評価を得ている。

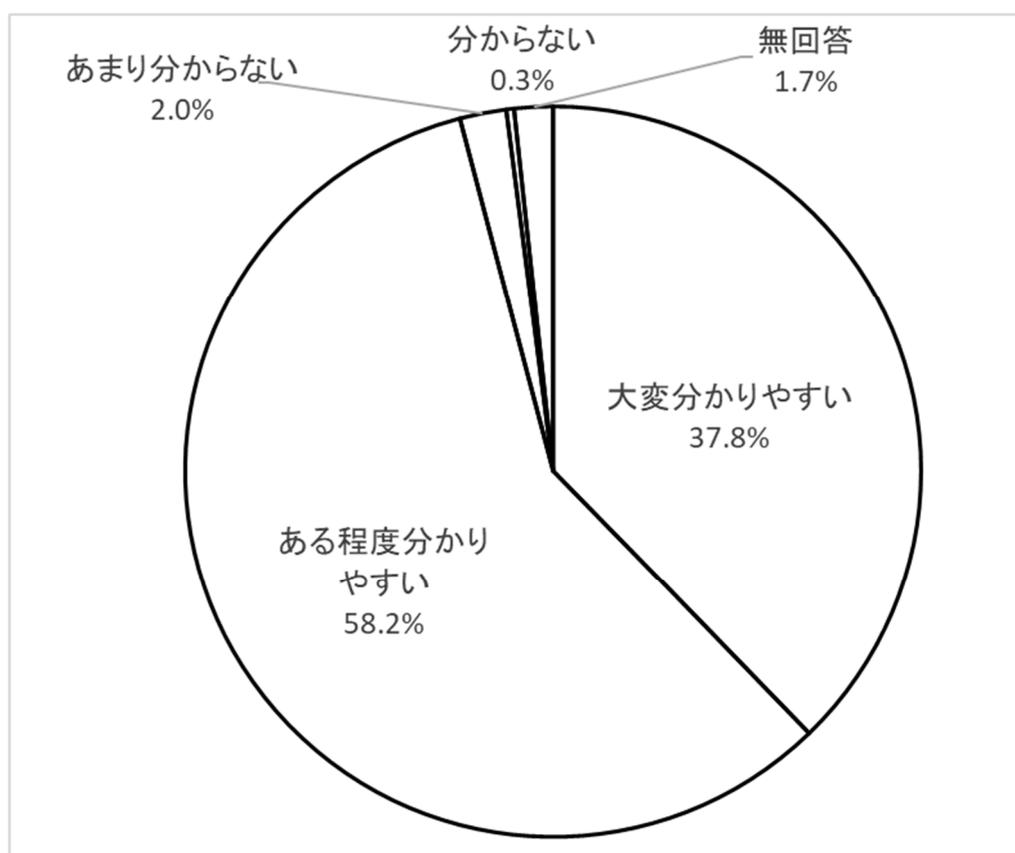
受講者からは、

「パワーハラに該当しうる項目で「過去の失敗に関する叱責」があったが、過去の失敗を現在の失敗に重ねて指導してしまった経験があったため、タイミングよく適切な対応をしなければならないと感じた。」

「職場や場面によるものと思うが、時勢もあるため個人をある程度尊重して対応することはやむを得ないと思う。ただ、相手側に必要以上に配慮すれば物事がうまく動かないケースもあると思われるため、バランスが重要と思った。」

「当事者同士だけではなく客観的な視点がとても重要だと思うので、スタッフそれぞれ知識を得て、ハラスメントの被害や目撃があればすぐに相談できる環境を構築することが大事だと思う。」などの感想が寄せられた。

[アンケート結果]



注) 上記グラフは、令和6年の全受講者数331名のうち回答があった294名における回答の割合を表す。

